

○議長（堀内春美さん）

日程第2 一般質問

質問の通告者は7名であります。これから通告順に一般質問を行います。

それでは、通告1番 7番 望月眞君の一般質問を行います。

7番 望月眞君。

○議長（堀内春美さん）

7番 望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

高齢化社会の進行に伴い、公共交通の必要性も高まることが推測されます。そこで今回は本町の地域公共交通について通告に則り、質問いたします。通告事項1です。地域公共交通の運行についての質問をいたします。

最初の質問です。新たに作成された地域公共交通計画の交通計画でのデータ資料を見ると地域公共交通の利用度が低いことがうかがえます。とりわけデマンド交通の利用者数が年々減少していますが、この現状をどのように分析しているか伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。本町の、デマンド交通の利用状況につきましては、令和2年度から4年度にかけて利用者数が減少しており、令和4年度の年間利用者数は1万4628人でありました。この主な要因といたしましては新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響であると分析しております。

こうした中、令和5年度の年間利用者数は1万5319人で、前年比4.7%691人の増加に転じており、令和6年度におきましても、利用者数は前年度を上回り、右肩上がりとなる見込みであります。

しかしながら、コロナ前の利用者数の水準までは回復して回復していないことから、広報紙や出前講座により、デマンド交通の利用方法や利点についてより一層の周知を図り、利用者数の増加に努めてまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問お願いいたします。ただいまご回答の中で令和5年度は1万5319人、これデマンド交通地域と区域運行と定時路線の合わせた数ですね。報告がございましたが、令和5年度は4年度と比較して691人の増加というようなご回答がありました。私、新たに策定された地域公共交通計画のデータを拝見させていただきましたが、それによりますと、町民向けのアンケートの集計を見ると、町運行のコミュニティバス、ホリデーバス交通利用者は回答者の3%未満と低い結果でした。これはですね、特定の人に実施したアンケートではなくて、町民全体から取ったアンケート結果ですので、この結果は想定内の結果だと言ってもいいと思います。ただですね、利用しない理由として、15%の人が利用方法がわからないと回答しています。また、区域変更デマンド交通利用者登録者は57名が回答していて、その

利用していて、そのうち利用していると答えた人は13名でした。デマンド交通区域運行利用状況を見ると、令和5年度の1万6913人をピークに年々減少し、令和4年度は3年度より565人減少した時1万2868人でした。特にですね、デマンド交通区域運行の見直しが必要だと思いますが、町の考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。区域運行については、本年度旧増穂地区において16便を区域運行からデマンド運行に切り替えを行いました。

その結果として、買い物、病院に出かけやすくなったという声を、いただいております。今後も必要に応じまして、区域運行の見直しを行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ただやっぱり運行状況を見直していくことが、必要だと思います。そこでですね、デマンド交通区域運行の見直しに関連して、次の質問になります。

南アルプス市ではデマンド交通を運行せずに、高齢者等にタクシー券を配布しています。

(2)の質問になりますが、地域公共交通利用者の利便性の向上を図るために、高齢者等にタクシー券交付導入の検討ができないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町では予約制の乗り合いタクシーであるデマンド交通を町内タクシー事業者に委託し運行することで、交通弱者の支援、交通空白地の解消を図っています。タクシー券の交付は、交通弱者への新たな交通手段の提供として、有効ですが、需要に対する町内タクシー事業者のドライバーや車両台数の確保、事業実施の財政的な負担等を考慮する必要があると考えております。こうしたことから、現在町で研究している高齢者や障害者等を対象に、町内を500円で移動できる、ワンコインタクシーも視野に含め交通弱者への対応を慎重に検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

今ですね町長の方からワンコインタクシーの導入も視野に入れながら検討していきたいというご回答がありました。再質問お願いします。南アルプス市の高齢者タクシー利用助成制度について南アルプス市を視察し、担当者から説明を受けました。市内に住む利用希望者からの申請により、65歳から74歳までの免許返納者には月2枚分を75歳以上の方については、免許返納者及び免許を持っていない人に月3枚分を、免許保有者には月2枚分を配布しています。いずれもタクシーの初乗り分に当たる助成だそうです。これは大体600円ぐ

らいになるかというふうに聞いておりおりますが、利用者が増えていることで、今年度から月3枚に増やしたそうです。茨城県結城市では高齢者タクシー制度があり、市内65歳以上の高齢者を対象に定額制限の補助をしています。利用予約利用できるのは、通常のタクシー利用者が少ない平日の9時から15時の間だということです。大洗町では75歳以上の町民を対象に実証実験として期間限定で町内を500円で移動できる500円タクシーを導入しています。本町でもですね町長の答弁にもありましたが、デマンド運行と兼ね合いながら、タクシー券導入を前向きに検討すると良いと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。現在、タクシー業務を行っているのは、町内2社であります。限られたドライバーや車両台数を効率よく活用させていただく場合に、こういった形であれば、町民の需要に応じていけるか等について、今後、事業者と協議する中で検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

近い将来、いわゆる団塊の世代と言われる人という人たちを中心に、免許返納者が増えることが予想されます。もう私も、もうそろそろ免許返納しなきゃならないかなというような思いを持っておりますが、公共交通機関としてのタクシーの必要性が高くなると思います。今現在、2024年問題も影響して、タクシー業界は営業困難な状況にあります。閉店する事業者が増えています。市川三郷町では、タクシー業者がなくなり、タクシーを利用したい町民が不便していると聞いております。本町内のタクシー業者を支援する手立てとしても、タクシー券の導入について、事業者の意見も聞きながら、前向きに検討していただきたいと思います。

(3)の質問になります。身延町営バスは、高校生以下は無料です。身延高校に通学している本町生徒たちもその恩恵を受け、多数の生徒たちが、身延町営バスを利用しています。そのことも踏まえながら、質問をいたします。子ども政策の充実と地域公共交通の活性化を図るために、コミュニティバス、ホリデーバスの18歳未満者、高校3年生を含む子どもたちと障害者の人たちの運賃の無料化ができないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。町では、コミュニティバス、ホリデーバスともに全区间一律で200円、小学生以下は100円で運行しております。また、ホリデーバスにつきましては、障害者や町内の小・中学生、高齢者は指定された証明書等の提示により、無料で乗車が可能となっております。

こうした中、無料化の各対象拡大の実施については、公共交通利用の増加が見込まれる一方で、運行収入の減少による財政負担の増加が懸念されます。

このため、利用状況や財政状況を注視しつつ、持続可能な運行が行えるよう、調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

今利用状況、あるいは無料にした場合の経費のことも含めながら検討していただきたいというご回答を得ました。再質問をお願いします。私は青洲高校、通学生徒たちが利用している7時30分、これ2便ですね、改めてコミュニティバスに乘車して、高校生や運転手さんと意見交換をしました。富士川病院から身延町身延町に在住している生徒2名が、身延町営バスから本町のコミュニティバスに乗り換えました。その際ですね、富士川バスも無料になると嬉しいですよと話していました。この日の2便には、2便バスには14名の青洲高校生の乗車がありました。運転手さんに聞いたところ大体そのくらいだということでしたが、ある高校生は進学に備えて貯金をしています。バスが無料になると本当に助かりますと話していました。平成7年度には、富士川中学校が開校されます。鰍沢北区、6年度かな、ごめん、失礼しました、平成6年度ですね。富士川中学校が開校されます。鰍沢北区中区南区の一部生徒は、徒歩通学とされています。しかしですね、コミュニティバスが無料になれば、生徒たちの通学手段としても活用することができます。天候が悪いとき、怪我をしたり、体調が悪いとき、荷物が多いとき、あるいは部活動に早く出かけるそういったときにですね、通学バスとして臨機応変に活用することもできます。こども政策及び子育て支援政策の向上にもつながります。子どもにやさしい町づくりの具現化になると思います。実現に向けて前向きに検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。コミュニティバスについては、JR時刻表に合わせ、ダイヤとルートを定めているため、中学生の通学通学利用については、路線変更を伴うことから現状としては難しいと考えますが、利用状況や財政状況を注視しつつ、特に通学利用となる高校生については、今後調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問ですが、今のコミュニティバスの運行状況でですね、1便2便を利用すれば、鰍沢地区の中学生たちがバスを利用することは私は可能だと思うんですね。時間帯の変更運行通路の変更しなくても十分できるんじゃないかというふうに思っております。その点についてどうでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。中学生の利用状況については、現状として利用が可能ということではありますが、やはり利便性を考えたときに、ルート変更も今後検討して考えていきたいと考えております。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

了解しました。ちなみにですね、14名の子どもたちが、青洲高校のバスをほとんど利用しています。毎日ですね、やって考えてみると1日往復で400円定期を使ってる人は少ないようですね。400円、それで150日間ぐらいただと考えると、年間90万円位の補助になると思うんですよね。そういった点を考えれば、やっぱり前向きにぜひその点は高校生の無料化ということも、考えてもいいんじゃないかなというふうに思います。運転手さんが、身延の人たちの声の中から身延町営バスを富士川や南アルプスの生徒たちが使っていると、鯉沢口から乗ってくわけです。鯉沢の営業所から乗ってくわけですけどもそうすると身延町の身延高校へ通っている子どもたちは座れないと身延町でお金を出しているのに、これっておかしいですねっていう町民の声もあるというようなことを私は聞きました。ぜひですね高校生の無料化はね、実現してほしいと思います。再質問お願いします。

ホリデーバスについてですが、中学生以上200円小学生100円、町内小・中学生無料で運行されていますが、ホリデーバス自体は利用者が少ないのが現状です。ホリデーバスを利用して町内外の子どもたちが三筋観光を中心に町の中を自由に散策できれば、町の活性化にもつながります。富士川中学校が開校開校すれば、生徒間の交流区域も広がります。生徒間の交流の足としての役目役割を担うことができます。ホリデーバスの子ども運賃の無料化についても前向きに検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。コミュニティバスと同様に今後調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

（4）の質問になります。私は、鯉沢地域の住民から様々な要望や意見を伺っています。前からですねその一つに、富士川病院の通院や増穂地区や道の駅、道の駅への買い物や用事に行くと、交通手段を増やしてほしいとの声が多数ありました。複数ありました。

そこで（4）の質問です。鯉沢地区住民の利便性を高めるために、ホリデーバス平林線の運行を、小室線のように鯉沢市街地を通るように変更できないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。町では、土日祝日に中山間地域と市街地を結ぶホリデーバスを運行しております。このホリデーバスは主に観光客や中山間地域の住民の移動手段として利用されており、平林線につきましては鯉沢口駅から国道52号線をとおり、平林まで運行するルートとなっております。鯉沢市街地を通るルートへの変更につきましては、停留所の増加により、利用者、利用者の利便性向上へとつながることから、実現に向けて進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

えとですね。これはですね鯉沢地区の皆さんだけでなくですね旧増穂町地区の皆さんも例えば図書館行くのにね、利活用もできるんじゃないかなと思います。実現に向けて取り組みたいというご意見をご回答いただきました。路線バスの変更には、地域公共交通活性化協議会や山梨交通との協議検討、警察や交通安全協会との確認、陸運局への申請と多くの手続きが必要となりますが、住民の交通利便性向上のために、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、通告2の質問について質問に移ります。富士川町地域公共交通計画についての質問です。本年6月に新たに策定された富士川町地域公共交通計画は、町内交通公共交通の現状と課題を把握し、観光振興計画と町の主な計画と連携するように、配慮されています。富士川町総合計画の一端を担う計画としての位置づけもなされています。計画では、将来を見据えた持続可能な公共交通の実現、生涯快適に暮らせる町のための公共交通を基本方針に1 住民生活を支える公共交通の確保、2 利用者に寄り添った公共交通、3 未来に誇れる公共交通体系の模索の三つの基本目標を掲げて、平成10年までを取り組み期間としています。

(1)の質問になりますが、利用者寄り添った公共交通の具体的施策として観光政策と連動した交通網の構築を提示していますが、他の市町との連携も考えていくのか伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。他市町との観光政策と連動した公共交通の連携につきましては、現在山梨県及び峡南5町における峡南地域ネクスト共創会議のワーキンググループにおいてその可能性を研究中であります。具体的な取り組みにはいたっておりません。今後、このような広域連携の枠組みの中で、観光分野を含む他市町との連携が具体的に進展した場合は、公共交通の相互乗り入れなどの調整につきましても、整備につきましても検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

この計画では、町内の観光政策に合わせてホリデーバスやコミュニティバスの公共交通の見直しを行うと提示されています。町民の利便性やまちの活性化を考えると、近隣市町との相互乗り入れもさらに推進したら良いと思います。例えばですね、南アルプス市営のバスを

道の駅富士川まで乗り入れてもらう。道の駅の活性化にもつながる、そういう希望も南アルプス市の市民の中にあるんですね。また本町のバスを南アルプス市の市立美術館まで乗り入れることができると思います。南アルプスの町営バスは、この市立美術館が起点になって、いくつかのルートがあるようなやつがある、で、コストコへということも出てくるんじゃないかなというふうに思います。相互乗り入れが難しいのならば、乗り継ぎができるように、路線や運行時間の検討をしたら良いと思います。観光政策の推進を図るためにも、町営バスの相互乗り入れや乗り継ぎ等の運行について、先ほど言いました峡南5町での協議や、新たに発足する予定の連携中核都市、都市圏構想の中で具体的にですねこういったことを検討を進めたら良いと思うんですがその点についていかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。これは再質問ですか。

○7番議員（望月眞君）

再質問です。失礼しました。再質問です。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。他市町の他市町への乗り入れにつきましては、路線延長に伴う新たな財政負担の検証もありますが、併せて乗り継ぎ路線の検討や相互乗り入れには、該当市町の公共交通関係者の理解も必要となってまいります。様々な要件がクリアとなることが求められますので、今後、今後は観光分野を含む市町との連携が具体的に進展した場合は、関係機関との協議を行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

えとです、具体的な事項を基にして連携協議をしていくことが大事だと思うんです。この一つのですねこの構想を進めていくうえでの材料になると思うのでぜひその点をご配慮して呼びかけとか投げかけをしていただきたいなというふうに思います。

(2)の質問です。11月25日の山梨日日新聞紙上に甲斐市のAIオンデマンド交通の実証実験記事が掲載されました。AIデマンドバスは、時刻表や決まった運行路線がなく、AIが予約状況において最適な運行ルートを探して走る乗り合いバスであり、全国各地で運行されています。そこで質問します。計画では未来に誇れる公共交通体系模索の具体策政策として、AIデマンドの導入を検討していくとありますが、現時点においてAIデマンドのメリットデメリットをどのように捉えているかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。AIデマンドシステムのメリットとしては、オペレーターを介さず、スマートフォンなどを通じてリアルタイムに予約ができ、最適な運行ルートが自動で設定されることから、運行コストの削減や、利用者の利便性向上が期待できるもの

と考えております。一方、デメリットとしては、デマンド交通を利用している多くの方が高齢者であり、不慣れなスマートフォンの操作により利用が困難である場合が多く想定されることまた、システムの導入、導入や維持に大きな費用がかかることが、課題であると考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問になります。本町規模の町の公共交通として、A I デマンドの利用度がどれくらい合うのか、ちょっと疑問が残ります。先ほど回答にもあったように、高齢者にとっては活用の仕方が難しいことも予想されます。また、A I デマンド運行整備には多額の経費が予想されます。費用対効果を考慮すると、A I デマンド公共交通配置配備については、私は慎重に検討すべきだと思いますが、当局のお考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。メディアにおいては、A I の良い面が取り沙汰されておりますが、本町の利用者の多くは高齢者であり、オペレーターとの会話の中で、そのやり取りの中で予約が変更されることも多くあります。町としては、利用者の利便性を第一にと考えており、こうしたことから、デマンドA I デマンドにつきましては慎重に検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ご回答のようにやっぱりメリットデメリットですね、よく検討してですね、費用対効果のことも考えてこれは取り組みを進めていただきたいというふうに思います。

(3) の質問になります。昨年度の私達富士川町議会の議員視察研修で茨城県境町に行き自動車運転バスに試乗しました。失礼しました、自動運転バスに試乗しました。安全静かな運行で快適に移動することができました。

(3) になります。未来に誇れる公共交通体系の策には、自動運転技術の導入の検討とクリーンエネルギー車両の導入促進を提示していますが、将来的に自動運転運行路線の整備配置を目指すのかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。自動運転路線の運行につきましては、自動運転技術の進歩やクリーンエネルギー車両の更なる進化及び社会情勢の変化を、注視しているところがあります。今後は、国や県、国や県の動向を見極めつつ、本町の地理的特性や、交通事情を踏まえ、自動運転運行路線の整備や配置の可能性について調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問お願いします。自動運転バスも既に全国各地で導入されています。

福井県永平寺町では、運行地域と速度限定ではありますが、国内で初めてレベル4にあたる完全自動運転バスが運行されています。私達が試乗した境町の自動運転バスは、特定条件下での運転可能なレベル2の段階で私達が試乗したときにも管理担当者が同乗していました。境町はレベル4運行を目指しているとのこと。本町で自動運転バスを導入するとしたら安全性及び利便性を考慮した、運行ルートや運行時間など細部の検討が必要になりますが、こういった取り組みが必要取り組みの見直しについて必要性の見直しについて伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。今後、更なる高齢化や免許返納者が増えてまいりますので、新たな交通システムの導入については、この自動運転バスを含め検討していかなくてはなりません。しかしながら、道路の形状や交通状況、警察の指導など課題もありますので今後はそうした課題や需要も研究する中で検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

検討材料の一つとして、やっぱりこれを配備するためのやっぱり財政をどうするか、多くの経費がかかることが見込まれます。再質問になります。自動車運転の整備配置には、車両の購入や運行ルートの整備等で多くの経費が見込まれます。国交省による地域公共交通確保維持改善事業補助金、これも合うとお聞きしていますが、導入するとしたら、その財源についての見直しについて伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。自動運転技術やSDGsの観点からも、国においてさらに推進していくことが考えられます。国等の有利な財源について注視しながら、あわせて研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

私はですね、安心安全で暮らしやすい町づくりあるいは環境にやさしい町づくりを推進する具体的方法として、自動運転バスの配備には賛成をしております。これは、町のイメージアップにも繋がってくると思います。ただ、回答がございましたように、多方面による検討がこれから必要になってくると思います。今ある地域公共交通、デマンド定時路線やコミュニティバスの運行のあり方とも勘案しながら、総合的かつ実践的に検討を進めていただきました。

いと思います。高齢化社会の進行に伴い、本町においても、免許返納者等交通弱者が増えることが想定されます。地域公共交通の必要性もこれまで以上に高まります。将来を見据えた持続可能な公共交通の実現を見据えて、しっかりと具体的にかなり計画的に取り組んでいただきたい、そのことをお願いして私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告1番 7番 望月眞君の一般質問を終わります。

---